

2026年10月4日（日）

日本基督教団 大宮教会

聖霊降臨節第20主日

神学校日・伝道献身者奨励日・世界聖餐日

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28 : 19~20)

朝 第 2 礼 拝 10:30~12:00

＜神の招き＞

前 奏 装いせよ、わが魂よ プラームス

招きの詞 イザヤ書 52 : 7~10

交読詩編 106 : 6~23

讃美歌 56

＜神の言葉＞

聖 書 イザヤ書 55 : 10~11
(旧約 聖書協会共同訳 1138 頁)
マルコによる福音書 4 : 1~20
(新約 聖書協会共同訳 65 頁)

祈 禱
讃 美 歌 195
説 教 「このたとえが分からないのか」
川島一夫 神学生

祈 禱
黙 想
讃 美 歌 412
聖 餐
讃 美 歌 79

＜神への応答＞

使徒信条
献 金
主の祈り
宣教報告
頌 栄 29
派遣と祝福

後 奏 主イエス・キリスト、我らを顧みたまえ バツハ

今週の御言葉

また、イエスは言われた。「このたとえが分からないのか。では、どうしてほかのたとえが理解できるだろうか。
(マルコによる福音書 4 : 13)

次週の礼拝（10月11日）

①9:00、②10:30

説教「信じて命を得る者」熊江秀一牧師

ハバク書 2:2~4、ヘブライ人への手紙 10 : 26~39

交読詩編 37 : 30~40

讃美歌 37、57、523、29

夕 18:00

説教「収穫のために」

佐藤潤伝道師

創世記 19 : 23~28、ルカによる福音書 9 : 51~62

交読詩編 37 : 30~40

讃美歌 83、453、406、25

朝 第 1 礼 拝 9:00~10:10

＜神の招き＞

前 奏 我ら今、聖霊に願いまつる ブクステフデ
招きの詞 イザヤ書 52 : 7~10
交読詩編 106 : 6~23
讃美歌 21

＜神の言葉＞

聖 書 ヨエル書 3 : 1~2
(旧約 聖書協会共同訳 1405 頁)
テモテへの手紙 24 : 1~5
(新約 聖書協会共同訳 385 頁)
祈 禱
讃 美 歌 56
説 教 「御言葉を宣べ伝えなさい」
熊江秀一牧師

祈 禱
黙 想
讃 美 歌 405
聖 餐
讃 美 歌 79

＜神への応答＞

使徒信条
献 金
主の祈り
頌 栄 29
派遣と祝福
後 宣 告 報 告
いつわりの世に別れを告げん レーガー

夕 礼 拝 18:00~19:10

＜神の招き＞

前 奏 義しき神 恵みの泉 バツハ
招きの詞 詩編 98 : 1~3
交読詩編 106 : 6~23
讃美歌 18

＜神の言葉＞

聖 書 列王記上 19 : 19~21、
(旧約 聖書協会共同訳 553 頁)
ルカによる福音書 9 : 51~62
(新約 聖書協会共同訳 122 頁)

祈 禱
讃 美 歌 363
説 教 「主イエスに従うとは」 佐藤潤伝道師
祈 禱
黙 想
讃 美 歌 507
聖 餐
讃 美 歌 79

＜神への応答＞

使徒信条
献 金
主の祈り
宣 告 報 告 25
頌 栄
派遣と祝福
後 奏 主よ、我は奴により頼む
バツヘルベレ

■**今週の祈禱課題**■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 熊本、能登、東日本大震災と水害の被災者の為に
3. 日本基督教団の神学校の為に
4. 伝道献身者の為に
5. 世界宣教の為に
6. 地域会の為に
7. 世界にキリストの平和があるように
8. 病気の兄弟の為に

***関東教区お祈りカレンダー** 日立教会 下館教会 石岡教会

◇先週の説教より 「キリストを畏れる」 エフェソの信徒への手紙 6：1～9、申命記 6：20～25 佐藤潤伝道師

5章では「妻と夫」、そして6章では「子と親」「奴隷と主人」という人間関係が見つめられています。これらは、私たちが日々の生活の中で実際に置かれている関係です。そのすべてを貫いているのが、「キリストに対する畏れをもって、互いに従いなさい」という勧めです。ここでいう「畏れ」とは、恐怖ではありません。天地創造の前から神に選ばれ、キリストの十字架によって罪を赦され、神の子とされたという、計り知れない救いの恵みに対する驚きと感謝です。1～3章で語られていた救いの事実が、4章以降の具体的な信仰生活の土台となっています。私たちは、救われるために人に仕えるのではなく、すでにキリストによって救われた者として、感謝してキリストに従うように他者に仕える者とされています。

「キリストを畏れる」信仰にあって、キリストの前では誰もが同じ主に仕える者です。ここに福音によって新しくされた人間関係があります。

それは単に上下関係を逆転させることではなく、権利や支配を中心とする関係から、相手の益を求め、自分を献げて仕える関係です。

このことは、現代の私たちにも大切な意味を持ちます。家庭や職場の中で、私たちはそれぞれ異なる立場と責任を担っています。しかし、その立場が私たちの人間としての価値を決めるものではありません。キリストが最終的な評価者です。この信仰に生きる私たちは、キリストが私たちのためにご自身を献げてくださった愛に応えて、隣人のために生きることへと招かれています。

教会で与えられた救いの恵みは、礼拝の中だけにとどまりません。私たちは家庭、職場、学校へと遣わされています。そして日々の人間関係の中で、キリストを主とする新しい生き方を証します。そこに、神の国の福音が私たちの信仰生活を通して具体的に現されていくのです。